

報告5 看護師会活動報告

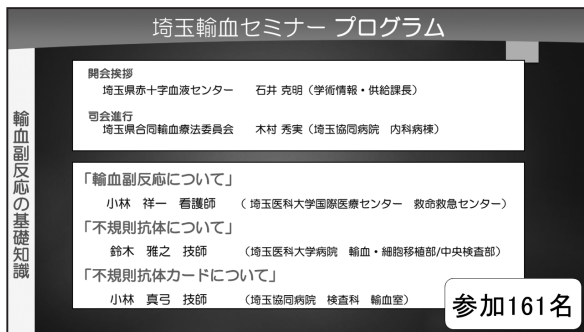
演者：木村 秀実 埼玉協同病院 内科病棟

スライド1



よろしくお祈いします。それでは報告を始めていきたくお思います。

スライド2

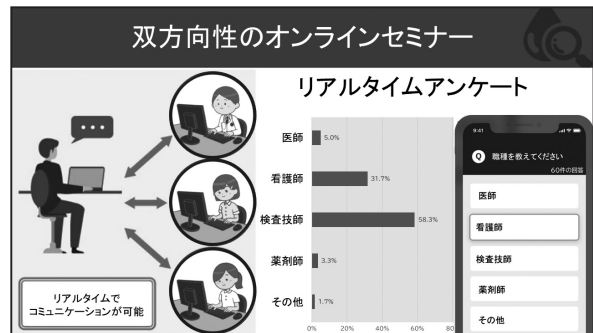


看護師部会では、埼玉輸血セミナーという集合型の研修会（勉強会）を行ってまいりました。2019年までは行っていたんですけども、コロナ禍でなかなか集まるのが難しいと言うような状況で、中止と言うような状況でした。2022年度は、何かできないかと言うことで、オンラインセミナーとかオンライン学習会というのが日常的になってきたというところで、埼玉輸血セミナーもオンラインでやってみました。

内容としては、スライドのとおり「輸血副反応について」「不規則抗体について」「不規則抗体カードについて」、それぞれの先生にお話をしていた

だいています。参加者については、161名の参加をいただきました。

スライド3

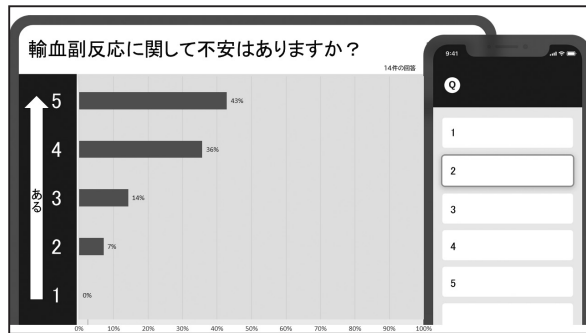


今回の学習会なんですけれども、オンラインというところでいろいろな方法がありますが、双方向性のオンラインセミナーができないかと言うことで実施を検討しました。

やり方の一つとしては何かビデオを撮って、放送するっていうようなものもありますが、実際にリアルタイムでコミュニケーションが可能な学習会をしようと言うところで、ライブで実施しています。そして一つ、新たな試みとしてリアルタイムアンケートと言うことを行っています。このように職種を教えてくださいという質問が、私が公演している時にポンと出てきて、

参加していただいている方に回答していただくと、このような形で、医師は、5%だったよとか、看護師が30%だよっていうのが、リアルタイムで演者側も参加している方もわかる言うものです。このリアルタイムアンケートを使って学習会をしたらちょっと面白いんじゃないかと言うことで実施しています。ちなみに、この60件の回答は今回のセミナーの時の回答で、検査技師さんが半分位、そして看護師さん医師という感じでの参加の状況でした。

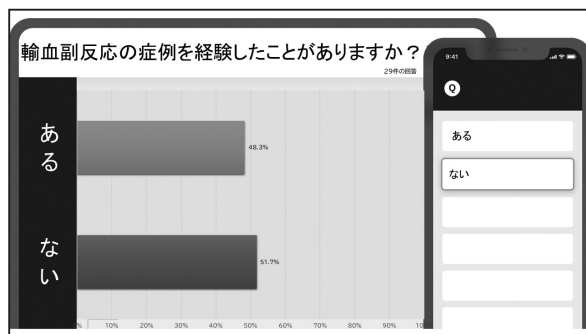
スライド 4



セミナーで実施しました他のアンケートについて、皆さんに共有して行きたいと思えます。

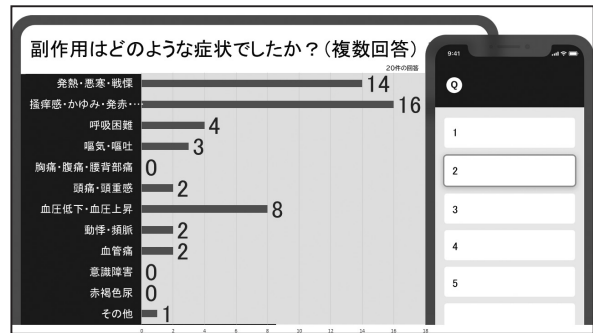
看護師の「輸血副反応について」のところですね。輸血副反応に関して不安はありますか？ということで、「5が非常に不安」と「1は全然ない」と言うところで回答いただきました。参加者からの反応としては、このような形で大体ほとんどの方が3、4、5、と言うことで、少なからず不安はあると言うような回答をいただいております。

スライド 5



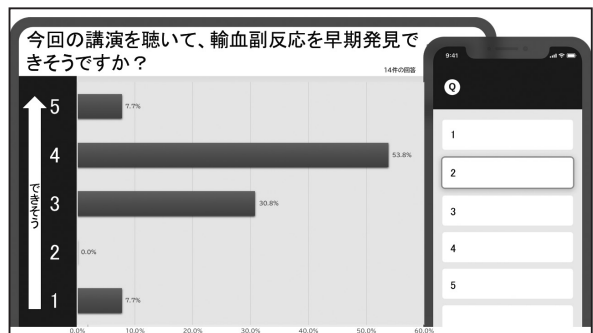
そして、輸血副反応を実際に症例を経験したことがありますか？という問いに関しては48%ぐらいの方はあると、逆に半分ぐらいの方はないと言うような回答をいただいております。

スライド 6



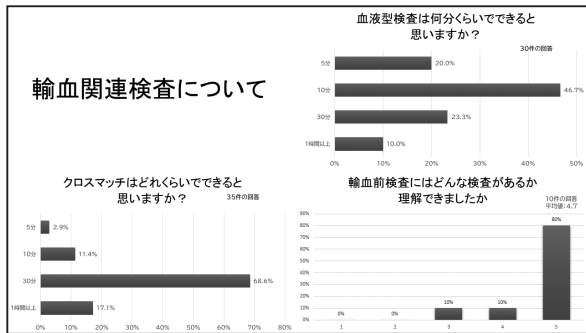
経験があるよと答えて頂いた方から、副作用はどのようなものでしたか？ということで、このように回答いただいております。複数回答で多いのが、掻痒感、かゆみ、発赤で二番目に発熱で三番目については血圧低下・血圧上昇という回答がセミナー中に判るという方法になっています。

スライド 7



そして学習の効果ですが、今回の講演を聞いて輸血副反応を早期発見できそうですか？「5ができそう」だ。「1がちょっと難しいかも」ということで回答を頂いてます。このような形で、そのセミナーの学習の内容を実際にどれくらい理解して頂いたかというのも、その場でわかるような状況になっています。

スライド 8

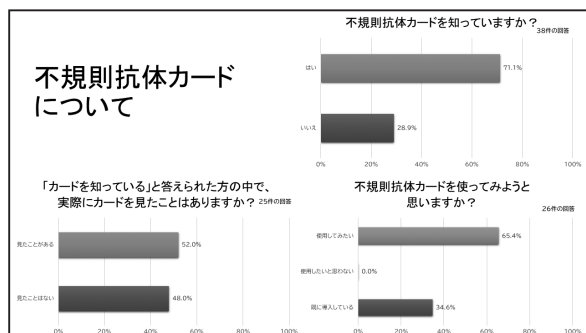


そしてこちらは、輸血関連検査のところではありますけれど、血液型検査は、何分くらいできますか？ということですが、まあ5分くらいでできるんじゃないかと回答した方が20%くらい、逆に1時間くらいかかるんじゃないかと思っただけの方が10%くらいいるということが分かりました。

そしてもう1つ、クロスマッチはどれくらいでできると思いますか？という質問には、5分以内にできるんじゃないかというのが2.9%、1時間以上かかるっていうのが17%いるというようなところが、リアルタイムアンケートだとその場でわかるというような状況です。

そして学習の効果のところでは、その最初はそのような状況でしたけれども、輸血検査についてお話をさせていただいて、最後に、「理解できましたか？」質問したところ、殆どの方が理解していただいたということが分かりました。

スライド 9



そして不規則抗体カードについてです。不規則抗体カードを知っていますか？という質問で、

「知っています」というのが、71%で逆にあの初めて聞きましたということがだいたい30%ぐらいいらっしゃったということになります。

そして、知っているという方で、実際に「見たことがあるありますか？」と質問に関しては、半分ぐらいい見たことがあるというような状況でした。

そして最後に、不規則抗体カードを使ってみようと思いませんか？という質問には、既にもう導入してありますという施設が、34%ぐらいいで、今回初めて知って使ってみようという方が65%ぐらいいという状況でした。

スライド 10



各セッションの満足度なんですけれども、輸血副反応、不規則抗体、不規則抗体カードについて、とても有益だった・有益だったという回答がほとんどで、好評を得たんじゃないかなと思っています。

スライド 11



そして、オンラインセミナーの感想ということで、来年以降、開催はどのような方法が皆さんいいですか？という問いに、ウェブ開催が良い、参

集・集合型、ハイブリッド、どちらでも良い、という選択肢から選んでいただきまして、75%以上の方はウェブ開催がいいんじゃないかというような回答をいただいています。

ご意見の中としては、ウェブでは、質問もしやすいと言うようなご意見があったりとか、今回のリアルタイム方式のアンケートは、オンラインでもそうですし、対面型の勉強会として少し面白いと言うようなご意見を頂いています。勤務時間とか、勉強会の場所によっては、どうしても行けないとか、子供が小さいので参加できない、自宅で参加できるところが良いと言うようなご意見をいただいております。

スライド 12

今後の課題
オンラインのメリット
<ul style="list-style-type: none">・ 現地に行かなくて良いので参加しやすい・ アンケート集計がリアルタイムで参加者もすぐに結果がわかる・ 質疑応答もリアルタイムで行うことができる
課題
<ul style="list-style-type: none">・ 各設問の回答率15～30%前後・ 回答してもらえるような操作方法案内、内容などの検討が必要

今後の課題なんですけれどもオンラインのメリットとしてはやはり現地で行かなくて、ネット環境さえあればどこでも参加できるということ。あとアンケートリアルタイムで参加者も演者も直ぐに結果がわかるというところで、少し何か面白い工夫ができるんじゃないかと思っています。質疑応答もリアルタイムで行うことができるというメリットがあるかなと思います。

課題ですが、使いかたが若干複雑だったりしたので、各設問の回答率が15から30%前後という事で、次回は回答してもらえるよう操作方法の案内や、内容の検討が必要という課題が残っております。

スライド 13

今後の活動に向けて
リアルタイムアンケートをより活用できるようなセミナーの開催方法や内容を検討していく
社会情勢を考慮しながら、輸血の知識を学べる場の提供を行い、埼玉県の輸血医療の底上げを図っていく

今後の活動に向けてですが、リアルタイムアンケートをより活用できるようなセミナーとか、開催方法とか内容を検討して行く必要があるかなと思います。

また、社会情勢を考えながら、輸血の知識を学べる場の提供を継続して行って、埼玉県の輸血医療の底上げを図っていききたいと思います。

以上です。

ありがとうございました。